

2024年7月17日
株式会社SVPジャパン

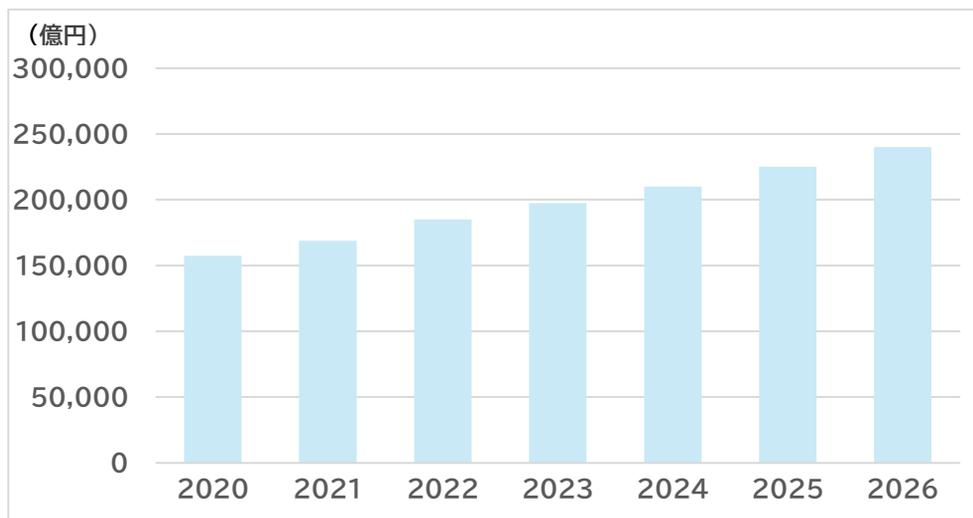
SVP注目市場分析 「eコマース」を公開

～コロナ禍の巣ごもり需要による、BtoC EC市場が急拡大～



会員制マーケットリサーチサービスを提供している、株式会社SVPジャパン（本社：東京都中央区、代表取締役社長：橋本 雅、以下「SVPジャパン」）は、本日、SVP注目市場分析レポート「eコマース-国内市場の現状と将来展望-」を、会員企業向けに公開いたしました。

■eコマースの国内市場



インターネットの普及により、世界的にeコマース（EC）の市場の拡大が続いている。日本においても、物販を中心に、取引に占めるECの比率は年々高まっている。

2020年に発生した新型コロナウイルス感染症のパンデミックは、消費者の巣ごもり需要を喚起し、ECの市場をさらに拡大させる要因となった。本レポートでは、国内における消費者向けのECに焦点を当て、その市場動向を概括する。

BtoC ECの市場規模は、2023年には、ほぼ20兆円の規模に拡大したと推定される。このうち物販は7割を占めている。サービスの市場規模は2023年に5兆円強と推定され、うち、約50%を旅行サービスが占めている。

近年のキャッシュレス決済等のスマートフォンを利用したサービスの充実などを背景に、ECの市場は今後も拡大が続くと見込まれる。

■ eコマースの市場概況

国内のBtoC ECの市場は、黎明期の1990年代末から一貫して拡大が続いている。2020～21年にかけては、前述のとおり、コロナ禍の巣ごもり需要が物販のECを大きく拡大させる要因となった。

2022年以降は、コロナ禍が収束に向かったことから、巣ごもり需要の反動から物販を中心に成長率がやや低下している。しかし、食品・飲料では、コロナ禍を契機にネットスーパーを利用する消費者が増加したことから、大手小売業のネットスーパーを中心に好調な市場の拡大が続いている。電子書籍、有料動画・音楽配信サービスなどのデジタルコンテンツの市場も、コロナ禍で増加した利用者が定着し、以後も拡大傾向にある。また、一時期、市場規模が大きく減少した旅行や飲食サービス、チケット販売のECは、2022年にはコロナ前の水準に回復して、BtoC EC全体の市場の拡大を牽引している。



■ 本レポートの構成

- I. 市場の定義
- II. 市場動向
- III. 市場規模・予測
- IV. マーケットシェア
- V. 参入企業の動向
- VI. 業界構造



←レポート全編を見る クリック

※本サービスのご利用は、SVP会員様限定でございます。

■ 購読について/資料ダウンロード・お問い合わせ

本サービスのご利用は、SVP会員様限定でございます。

購読をご希望の場合、当社SVP会員になっていただきますと、定期的に配信する市場調査レポートを全てご購入いただけます。なお、SVP会員は、ビジネス調査に関する、クイックリサーチとプロジェクトリサーチもご利用いただけます。

資料請求



お問い合わせ



■ 次回のテーマ

8月のテーマは「フードデリバリー」と「グリーンコンクリート」を予定しています。

～SVP注目市場分析レポート更新スケジュール…毎月第1・第3水曜日の発刊を予定～

[会社概要]

社名 : 株式会社SVPジャパン
代表取締役 : 橋本 雅
所在地 : 東京都中央区日本橋蛸殻町1-38-9 宮前ビル2F
設立年月日 : 1974年7月1日
事業内容 : 会員制のビジネス情報提供サービス
URL : <https://www.svpjapan.com/>

[本プレスリリースに関するお問い合わせ先]

株式会社SVPジャパン DX推進部 デジタルマーケティング課
info@svpjapan.com